

2. 遠賀川の現状と課題

2.1 河川整備の現状と課題

2.1.1 河道の整備状況

遠賀川は、明治38年7月の大洪水を契機とする改修及び昭和28年6月の大洪水等を契機として河川改修を進めてきており、平成16年3月末時点の大臣管理区間における堤防の整備状況は、堤防が必要な区間約252kmのうち完成堤防区間は約207km（約82%）です。

表2.1.1. 堤防整備状況

色別	区分	堤防延長 (km)	整備率 (%)
黒	完成堤防	206.6	82.2
赤	暫定堤防	23.0	9.1
青	暫々定堤防	21.9	8.7

注1) 築堤区間：251.5km

注2) 「河川便覧」（平成16年：国土開発調査会刊）をもとに集計。

注3) 暫定堤防とは、完成堤防に比べて高さや幅が不足しているもので、計画高水位以上の高さの堤防です。  
また、暫々堤防とは、計画高水位以下の高さの堤防です。

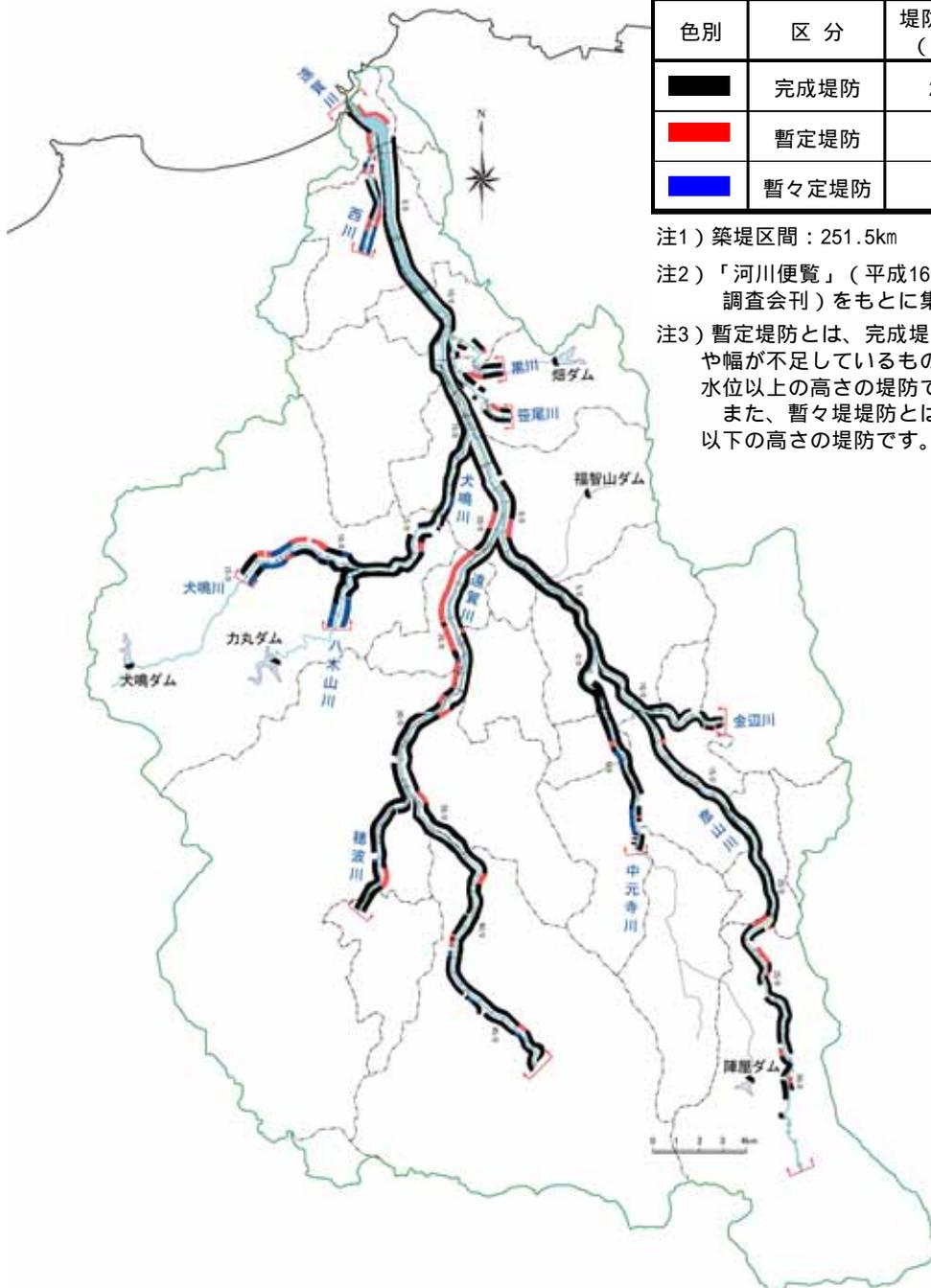


図2.1.1 堤防整備状況

## 2. 遠賀川の現状と課題

また、遠賀川では堤防が完成している箇所であっても、河道内の土砂の堆積等により、河道の流下能力が不足している箇所や新日鐵用水堰、しんにってつようすいせき 鯉田用水堰、なまずた 嘉麻川鉄道橋などの横断工作物により、洪水の流下を阻害している構造物もあり、過去に経験した昭和 28 年 6 月洪水や平成 11 年 6 月、平成 13 年 6 月、そして平成 15 年 7 月洪水などと同規模の洪水が発生した場合、甚大な被害が予想されます。



図2.1.2 主な洪水流下阻害の横断工作物

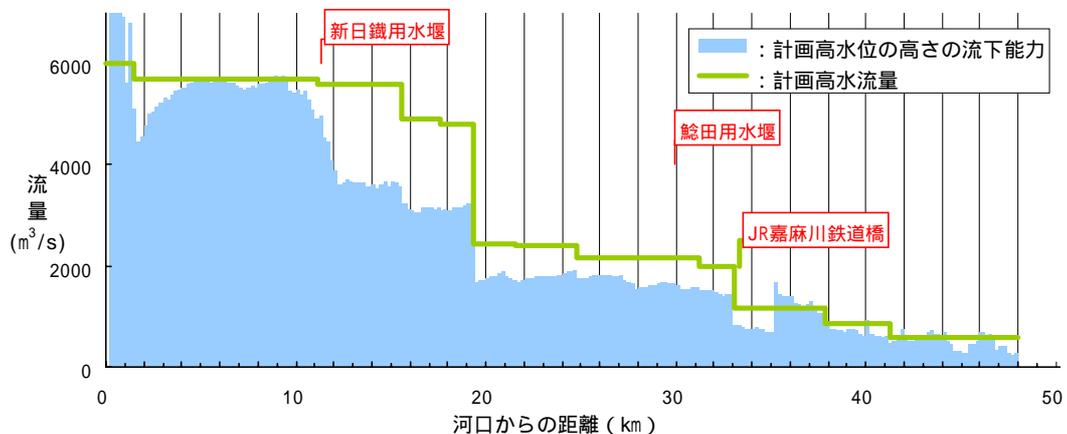


図2.1.3 現在の遠賀川の河道流下能力図

2.1.2 内水対策

遠賀川の中下流域一帯は、古くから農耕文化が開けた地域で、低地部に居住地が発達したこと及び鉾害による地盤沈下が発生したことから、内水被害が生じやすい地形特性です。昭和54年6月、昭和55年8月洪水にて大きな内水被害が発生し、内水対策として<sup>とのうら</sup>笹尾川排水機場、殿浦排水機場及び庄司川排水機場などを設置してきました。

しかしながら、近年の平成13年6月洪水、平成15年7月洪水においても内水被害が発生しています。特に平成15年7月洪水では、床上浸水約1960戸、床下浸水約1780戸にのぼる大規模な被害が発生しました。

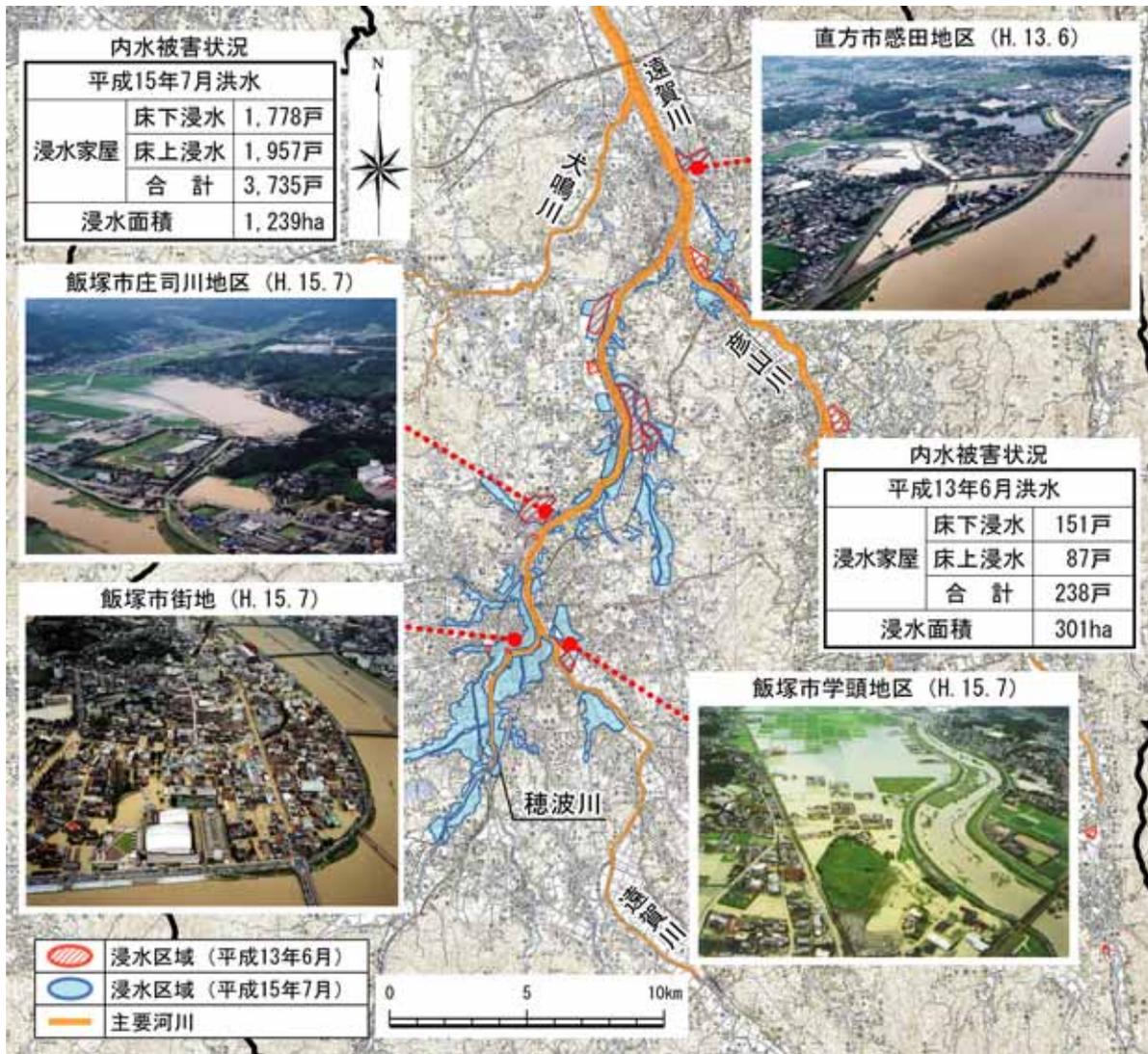


図2.1.4 近年洪水の内水被害状況（平成13年6月、平成15年7月）

2 . 1 . 3 堤防の安全性

遠賀川は過去に度重なる洪水を受けており、堤防はその経験に基づき築造・拡築や補修が行われてきましたが、昭和 28 年 6 月洪水では直方市植木地区の堤防が破堤し、甚大な被害が発生しました。このように、古い時代に築造された堤防は必ずしも工学的な設計に基づくものではなく、築造の履歴や材料構成等は必ずしも明確ではありません。その一方で、堤防の背後地には人口や資産の集積が著しい箇所もあるため、堤防整備による安全性の確保がますます必要となっています。

このように堤防や地盤の構造が様々な不確実性を有し、浸透や浸食に対して脆弱な部分もあると考えられることから、堤防が完成している箇所においても安全性の点検を行い、機能の維持や安全性の確保を図るため、必要に応じた堤防強化対策を実施していく必要があります。



写真2.1.1 彦山川庄地区堤防被災状況（田川郡大任町<sup>おおとう</sup>）

2 . 1 . 4 河川管理施設の状況及び操作管理

遠賀川の河川管理施設は、下表に示すとおり樋門や水門、排水機場、堰、床止め、陸閘など多くの種類の河川管理施設を抱え、その数は 889 施設と、九州第一位の施設数です。特に、床止めを除く人為操作を要する 860 の施設については、洪水時において迅速かつ的確な操作を行う必要があります。また、施設の中には第一期改修（明治 39 年～大正 8 年）で築造されたものもあり、堤防や樋門、護岸など河川構造物の安全性を確保するために、老朽化対策も必要となっています。これまでも、樋門、水門等の河川管理施設の維持、管理及び老朽化対策を実施してきましたが、今後も洪水時に河川管理施設が正常な機能を発揮するよう適切な維持管理及び老朽化対策が必要となっています。

表2.1.2 大臣管理区間内の河川管理施設数

樋門	水門	排水機場	堰	床止め	陸閘	計
752	10	15	13	29	70	889

出典：遠賀川河川事務所資料（平成 15 年度末時点）

〔 樋門 〕



〔 水門 〕



〔 排水機場 〕



〔 堰：遠賀川河口堰 〕



〔 床止め 〕



〔 陸閘 〕



## 2.2 河川の利用及び河川環境の現状と課題

## 2.2.1 河川水の利用

河川水の利用については、流域内の大臣管理区間に 70 にも及ぶ多くの堰が見られ、農業用水・工業用水・上水道水の供給が図られています。中でも上水道用水としては、流域内 22 市町村のうち 15 市町の貴重な水源となっており、河川水への依存度は約 7 割と高くなっています。

農業用水については、古くから利用されており、現在では約 10,200ha の耕地にかんがい用水の供給が行われています。

また、日の出橋下流においては、工業用水として 6.151m<sup>3</sup>/s、上水道用水として 5.629m<sup>3</sup>/s の供給が行われており、北九州都市圏の主要産業を支えています。

このように、遠賀川の水は、流域内及び北九州都市圏の重要な水源として利用されています。

平成大渇水と呼ばれ、特に北部九州及び中国・四国地方を中心に大きな被害が生じた平成 6 年渇水時においては、渇水調整協議会の開催、調整により、遠賀川に係る 5 市 6 町（平成 6 年当時）で給水制限等の渇水調整を実施し、大きな渇水被害を回避しました。

表 2.2.1 遠賀川における水利権量

種 別		件 数	水利権量計 (m <sup>3</sup> /s)	
大臣 管理 区内	農業用水	許 可	70	13.81
		慣 行	24	5.07
	工業用水		9	6.40
	上水道用水		32	7.50
	発電用水		0	0.00
	雑用水		0	0.00
	合 計		135	32.78
水系 内	農業用水	許 可	72	15.93
		慣 行	24	5.07
	工業用水		15	7.41
	上水道用水		43	9.12
	発電用水		1	0.30
	雑用水		0	0.00
	合 計		155	37.83

出典) 遠賀川河川事務所資料(平成16年度末時点)

## 2. 遠賀川の現状と課題

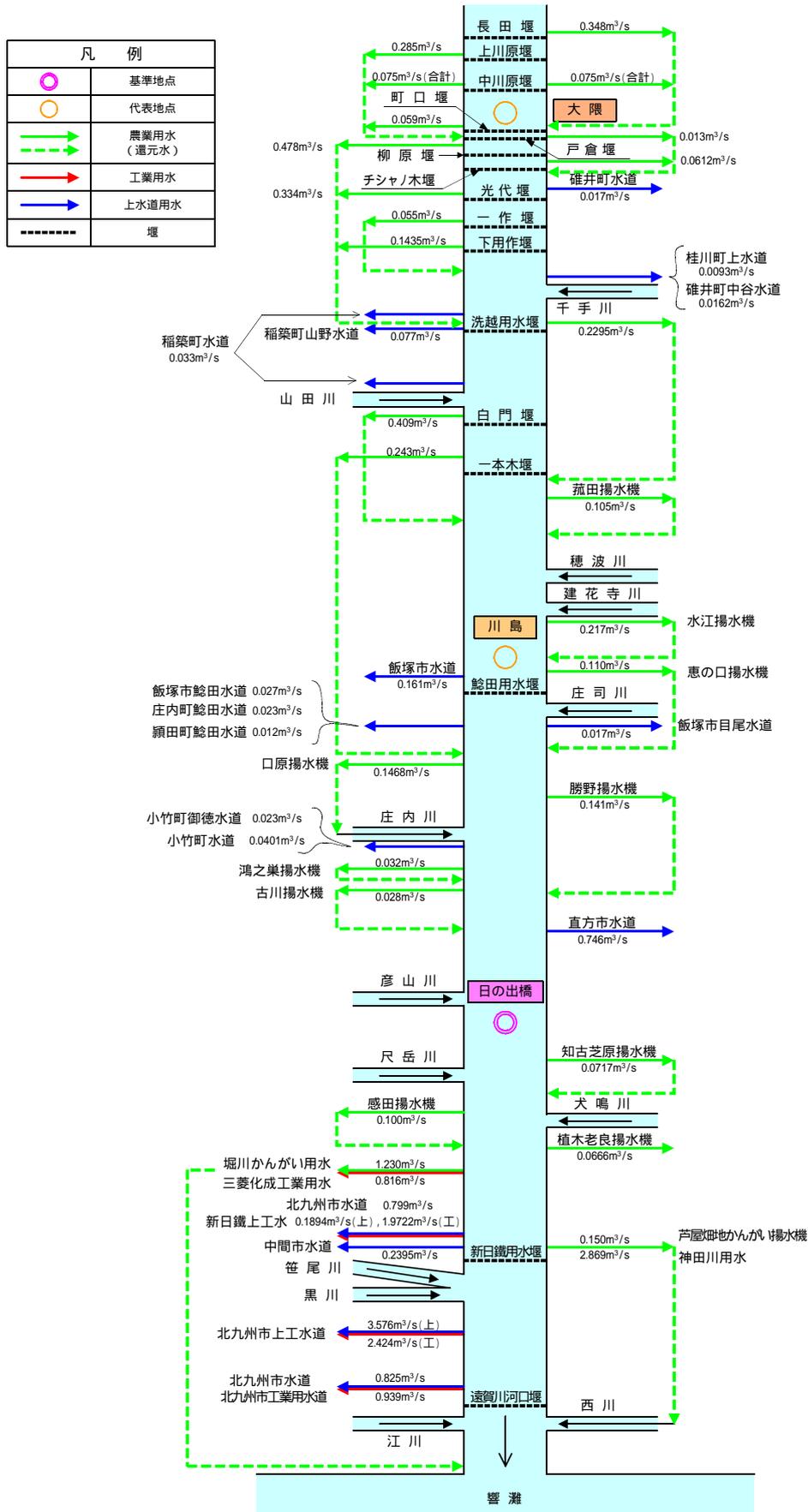


図2.2.1 遠賀川取排水系統模式図

### 2.2.2 自然環境

#### (1) 自然環境

遠賀川の上流部は、山間部を抜けるとすぐに扇状地上に耕作地が広がり、多くの堰により湛水域が連続しています。その水域にはスジシマドジョウ、モノアラガイ等の魚介類が生息し、水際部にはツルヨシ・マコモ群落が分布しています。また、一部にはアサザ等の浮葉植物や沈水植物が生育しています。



写真2.2.1 遠賀川上流部(嘉麻市)

山間を抜けてすぐに扇状地上に耕作地が広がる。上流にも堰があり湛水している。堰下流には早瀬や砂洲が形成され、水辺にツルヨシ群落が繁茂する。

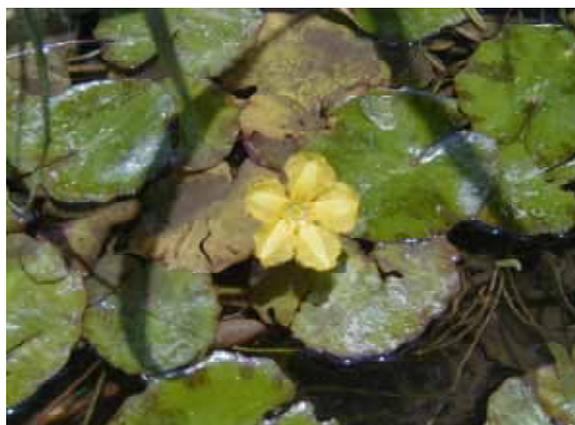


写真2.2.2 アサザ

(環境省:絶滅危惧 類 福岡県:絶滅危惧 A類)

リンドウ科。北海道を除いた各地の池や沼に生える、多年草の浮葉植物。川底の泥中を地下茎が横にはい、長い茎が水面に浮かぶ。6月から9月頃、対生する葉のわきに数本の花茎を出し、黄色の花を開く。

中流部の飯塚市から中間市にかけては、河床勾配は緩く、流路の蛇行と広い高水敷が特徴的な河川景観となっています。流路は緩やかに蛇行を繰り返し、所々に瀬や淵が見られます。広い高水敷は多目的広場、人工草地や採草地として広く利用され、オオシシウド、イヌゴマ、アゼオトギリ等の植物が生育しています。河岸にはヨシ・オギ群落が帯状に分布し、水域にはカネヒラ、ギギ等の魚類が生息・生育しています。

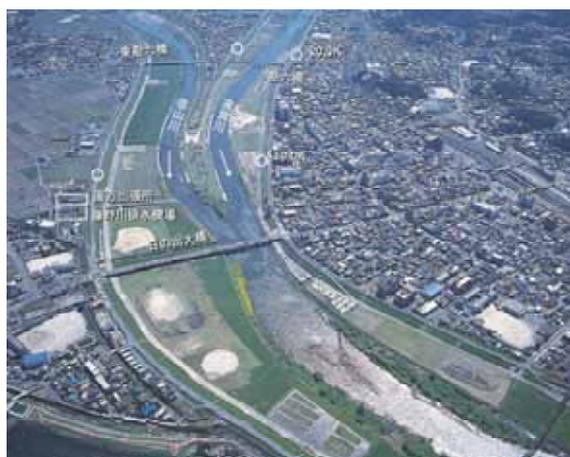


写真2.2.3 遠賀川中流部(直方市)



写真2.2.4 オオシシウド(福岡県:絶滅危惧 類)

セリ科。草丈2m以上になる大型のセリ科高茎草本で、開花結実した株は枯れる一年生草本。種分布の主体は冷温帯にあり、山地の草地や崩壊跡地等に生育する。九州北部では筑後川や遠賀川等平野部の河川に多く分布し、河川に依存した特殊な生育環境を選択する植物として注目される。



写真2.2.5 イヌゴマ(福岡県:絶滅危惧 A類)

湿地や河川の土手等の肥沃な砂泥地に生育する多年草で、細い地下茎を引いて群生する。やや軟弱な植物で、草刈り等の緩やかな攪乱には耐性があるが、大型植物による被圧や生育環境の変化には弱い。



写真2.2.6 ギギ(福岡県:準絶滅危惧)

昼間は石の下やヨシ場に潜み、主に夜間に種捕獲する。雑食性であるが、底生動物や小魚を主に食べている。産卵期は5月から8月で、石の下やその隙間に産卵する。



写真2.2.7 カネヒラ(福岡県:準絶滅危惧)

平野部の細流やかんがい用水路などの流れのやや緩やかな所や池沼に生息する。産卵の盛期は秋で、イシガイなどの二枚貝に産卵する。

中間市にある中<sup>なかのしま</sup>島は、周囲と隔離された環境にあり、水際部は護岸がなく、ヤガミスゲ等の湿性草木群落や竹林・木本等植生が多様です。河畔林はツグミ、ムクドリ等の様々な鳥類の採餌場、ねぐらとなっており、ヨシ・オギ群落はオオヨシキリの営巣地や多くの昆虫類の生息場となっています。また、丘陵部には、古墳時代のものと言われている横<sup>あうけつぼ</sup>穴墓古墳群が確認されています。



写真2.2.8 中島(中間市)

中島周辺の植生は遠賀川の典型的な河辺植生をとどめており、第2回自然環境保全基礎調査で、「遠賀川の河辺草本群落」として特定植物群落に選定されている。



写真2.2.9 ヤガミスゲ

(福岡県:絶滅危惧ⅠB類)

カヤツリグサ科。湿地に生育する多年草で、匍匐<sup>ほふく</sup>をのばして繁茂するため、マット状の群落を形成する。スゲ類の中では脆弱な形質を持ち、高茎草本に対する競争力は弱いものと推定される。福岡県内では極稀。



写真2.2.10 オオヨシキリ

(福岡県:絶滅危惧Ⅱ類)

九州以北に夏鳥として渡来し、ヨシ原で繁殖する。雄の早いものは、4月末に飛来し、なわばりを宣言。ギョギョシ、ギョギョシとさえずる。ヨシ原の茎をからめて、外径10cmぐらいのお椀型の巣を作り、4個から6個の卵を産み落とす。ヨシにつく昆虫類やクモ類を餌とする。

下流部は、遠賀川河口堰の湛水域になっており、高水敷はグラウンド、広場やサイクリングロード等が整備され、植物相は単調なものとなっています。水際も直線的な低水護岸により単調であり、水域には止水性のギンプナ、コイや外来種であるブラックバス等の魚類が生息・生育しています。遠賀川河口堰直上流部の湛水域には、カモ・カモメ類が多く確認され、広い開放水面上をミサゴが採餌場として利用しています。



写真2.2.11 遠賀川下流部

(水巻町、遠賀町上空より望む)

高水敷の人的利用や低水護岸の敷設、水際の直線化により、ヨシ原や湿地帯など下流特有の河川環境には乏しい区間となっている。



写真2.2.12 ミサゴ

(環境省:準絶滅危惧、福岡県:準絶滅危惧)

中型の猛禽<sup>もうきんるい</sup>類で、ほぼ全国的に分布する。本亜種は北海道から九州、およびその周辺の小島などの海岸付近や内陸の水域の近くに生息している。海、河川や湖などで中・小型魚を捕食し、崖や高木で営巣する。

## 2. 遠賀川の現状と課題

遠賀川河口堰から下流は汽水域と なっていますが、約 2km と短く、護岸の整備等により単調な環境とな っています。わずかな干潟、砂浜に はハマサジやハマボウ等の塩性植物 が生育しています。河口付近の干潟 は、シギ・チドリ類の採餌場となっ ており、また、マゴコロガイ等の底 生動物の生息・生育場ともなってい ます。



写真2.2.13 遠賀川河口部  
(芦屋町、河口部より上流を望む)



写真2.2.14 ハマサジ  
(環境省:絶滅危惧 類 福岡県:絶滅危惧 類)  
本州から九州の海岸の湿地に生える二年草。葉が匙<sup>さじ</sup>に似ているのが名前の由来。



写真2.2.15 マゴコロガイ  
(福岡県:絶滅危惧 類)  
九州の内湾および瀬戸内海に分布する。  
内湾の潮間帯の砂泥底に深い巣穴を掘るアナジャコの腹面に足糸で付着する。殻長13mm、殻高6mm程度と小型、イガイ形で薄質。  
(写真はアナジャコに付着するマゴコロガイ)

## 2. 遠賀川の現状と課題

支川彦山川の最上流部は山付きの溪流環境となっており、ヤマセミやカジカガエル等が生息しています。その後、河床勾配は緩くなり堰が多くみられますが、湛水区間は短く、瀬や淵も数多く形成されています。水際にはツルヨシやマコモ群落が分布し、水域にはオヤニラミ、アカザ等の魚類が生息・生育しています。



写真2.2.16 彦山川(大任町上空より望む)



写真2.2.17 アカザ

(環境省:絶滅危惧Ⅱ類、福岡県:絶滅危惧ⅠB類)

夜行性で昼間は比較的大きい浮き石の下に潜み、夜間活動する。水底を這うように遊泳し、水生昆虫を餌としている。産卵期は5月から6月で、石の下に産み付けられた卵塊をオスが保護する。

このように、人為的影響が濃く単調に見えがちな遠賀川にも、多様な生物が生息しています。これらの生物については、その多様な生息・生育環境を保全していく必要があります。

2. 遠賀川の現状と課題

表2.2.2 遠賀川水系で確認された特定種

	特定種	種数
魚類	スナヤツメ(環境省:絶滅危惧 類,福岡県:絶滅危惧 B類) ウナギ(福岡県:準絶滅危惧) ヤリタナゴ(福岡県:準絶滅危惧) カネヒラ(福岡県:準絶滅危惧) カゼトゲタナゴ(環境省:絶滅危惧 類,福岡県:絶滅危惧 類) バラタナゴ属の一種(環境省:絶滅危惧 A類,福岡県:絶滅危惧 類) ドジョウ(福岡県:絶滅危惧 類) スジシマドジョウ小型種点小型(環境省:絶滅危惧 B類,福岡県:絶滅危惧 B類) アユ(福岡県:天然不明) メダカ(環境省:絶滅危惧 類,福岡県:準絶滅危惧) オヤニラミ(環境省:準絶滅危惧,福岡県:準絶滅危惧) アカザ(環境省:絶滅危惧 類,福岡県:絶滅危惧 B類) ギギ(福岡県:準絶滅危惧)	13種
底生動物	マルタニシ(環境庁:準絶滅危惧,福岡県:準絶滅危惧) モノアラガイ(環境庁:準絶滅危惧) ヒラマキミズマイマイ(福岡県:絶滅危惧 類) クルマヒラマキガイ(レンズヒラマキガイ)(環境庁:絶滅危惧 類,福岡県:絶滅危惧 類) ナガオカモノアラガイ(環境庁:準絶滅危惧) トンガリササノガイ(環境庁:準絶滅危惧,福岡県:絶滅危惧 類) マゴコロガイ(福岡県:絶滅危惧 類) トゲナシスマエビ(福岡県:情報不足) ハマガニ(福岡県:準絶滅危惧) ベンケイガニ(福岡県:絶滅危惧)	10種
植物	デンジソウ(環境庁:絶滅危惧 類,福岡県:絶滅危惧 A類) アカウキクサ(環境庁:絶滅危惧 類,福岡県:絶滅危惧 A類) ウシオツメクサ(福岡県:情報不足) アゼオトギリ(環境庁:絶滅危惧 B類,福岡県:絶滅危惧 A類) ナガミノツルキケマン(環境庁:準絶滅危惧,福岡県:絶滅危惧 B類) コイヌガラシ(環境省:準絶滅危惧,福岡県:絶滅危惧 類) タコノアシ(環境省:絶滅危惧 類,福岡県:絶滅危惧 類) イヌハギ(環境省:絶滅危惧 類,福岡県:絶滅危惧 B類) ハマボウ(福岡県:絶滅危惧 類) ミズマツバ(環境庁:絶滅危惧 類) オオシシウド(ヨロイグサ)(福岡県:絶滅危惧 類) アサザ(環境省:絶滅危惧 類,福岡県:絶滅危惧 A類) ロクオンソウ(環境庁:絶滅危惧 B類) ハマサジ(環境庁:絶滅危惧 類,福岡県:絶滅危惧 類) ミソコウジュ(環境庁:準絶滅危惧) カワヂシャ(環境省:準絶滅危惧,福岡県:準絶滅危惧) シオン(環境省:絶滅危惧 類,福岡県:情報不足) ソソバオグルマ(環境省:絶滅危惧 類,福岡県:絶滅危惧 B類) イヌゴマ(福岡県:絶滅危惧 A類) カキツバタ(環境省:絶滅危惧 類) ヒメコウガイゼキショウ(福岡県:絶滅危惧 B類) アワガエリ(福岡県:情報不足) ミクリ(環境省:準絶滅危惧,福岡県:絶滅危惧 A類) コガマ(福岡県:絶滅危惧 B類) ピロードスゲ(福岡県:情報不足) ウマスゲ(福岡県:情報不足) ヤガミスゲ(福岡県:絶滅危惧 B類) シラン(環境省:準絶滅危惧,福岡県:準絶滅危惧)	28種
両生類	イモリ(福岡県:準絶滅危惧) ニホンアカガエル(福岡県:絶滅危惧 類) トノサマガエル(福岡県:絶滅危惧 B類)	3種
爬虫類	スッポン(環境省:情報不足) ジムグリ(福岡県:準絶滅危惧)	2種
哺乳類	ハタネズミ(福岡県:準絶滅危惧) カヤネズミ(福岡県:絶滅危惧)	2種
鳥類	カンムリカイツブリ(福岡県:絶滅危惧 類) チュウサギ(環境省:準絶滅危惧,福岡県:情報不足) ミサゴ(環境省:準絶滅危惧,福岡県:準絶滅危惧) ハチクマ(環境省:準絶滅危惧,福岡県:準絶滅危惧) オオタカ(環境省:絶滅危惧 類,福岡県:準絶滅危惧) ハイタカ(環境省:準絶滅危惧,福岡県:準絶滅危惧) サシバ(福岡県:準絶滅危惧) ハヤブサ(環境省:絶滅危惧 類,福岡県:絶滅危惧 類) ウズラ(環境省:情報不足,福岡県:情報不足) ヒクイナ(福岡県:準絶滅危惧) イカルチドリ(福岡県:準絶滅危惧) ケリ(福岡県:準絶滅危惧) タカブシギ(福岡県:絶滅危惧 類) オオジシギ(環境省:準絶滅危惧,福岡県:情報不足) ツバメチドリ(環境省:絶滅危惧 類,福岡県:絶滅危惧 類) オオヨシキリ(福岡県:絶滅危惧 類) サンコウチョウ(福岡県:絶滅危惧 類)	17種
陸上昆虫類	ワスレナグモ(環境省:準絶滅危惧) キイロヤマトンボ(環境省:絶滅危惧 類) チャイロカメムシ(福岡県:準絶滅危惧) アオヘリホソゴムシ(福岡県:準絶滅危惧) シマゲンゴロウ(福岡県:絶滅危惧 類) セマルケシマグソコガネ(福岡県:絶滅危惧 類) ジュウサンホシテントウ(福岡県:絶滅危惧 類) フトネクイハムシ(福岡県:絶滅危惧 類) ハイイロボクトウ(福岡県:絶滅危惧 類) ミヤマセセリ(福岡県:絶滅危惧 類) ツマグロキチョウ(環境省:絶滅危惧 類,福岡県:絶滅危惧 類) コムラサキ(福岡県:絶滅危惧 類) ウラギンヒョウモン(福岡県:絶滅危惧 類)	13種

特定種: 下記の資料の掲載種及び、貴重または保護すべき種として指定されている種

- ・国・県・市町指定による天然記念物
- ・絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(別名:種の保存法)
- ・環境庁レッドリスト
- ・環境省(庁)レッドデータブック
- ・福岡県版レッドデータブック

出典) 遠賀川河川環境マップ(平成15年3月、平成16年3月)、遠賀川中流域河川環境情報図

### (2) 水質

水質については、石炭産業が盛んな時代は石炭の選別に利用した水を遠賀川へ排水していたため、「ぜんざい川」と呼ばれるほど川は黒く濁っていました。石炭産業の衰退に伴い、次第に透明度は増してきましたが、都市化の進展や生活様式の変化により、現在では有機汚濁による水質の悪化が顕著となっています。

各自治体においての下水道整備とともに、汚濁の著しい支川における河川浄化施設の整備や生活排水対策の啓発活動等を行ってきており、近年においては環境基準値を概ね満足しています。しかし、依然として遠賀川の水質は九州の一級河川 20 水系 25 河川の中で毎年ワースト上位にランクされ、さらなる水質改善のための対策が必要となっています。

また、北九州都市圏の都市用水が取水されている遠賀川河口堰貯水池は、富栄養化によるアオコの発生が見られることがあり、水道水源として安全でおいしい水の確保が求められています。さらに、油類や有害物質が河川へ流入する水質事故が、近年増加しています。

このような中、平成 14 年 7 月に遠賀川は「第二期水環境改善緊急行動計画（以下「清流ルネッサンス」という）」の計画対象河川となり、平成 16 年 3 月には「遠賀川水系水環境改善緊急行動計画」を策定し、流域全体での水環境改善へ向けた取り組みを始めています。また、近年では流域内の住民団体等が、清流復活をめざし、源流の森林保全活動やシンポジウムを開催するなど水質改善へ向けた活動を積極的に展開しており、地域住民と行政が一体となった取り組みが行われています。



写真2.2.18 遠賀川河口堰におけるアオコの発生状況

## 2. 遠賀川の現状と課題

表2.2.3 環境基準類型指定状況

水域の範囲		類型	達成期間	環境基準地点	指定年月日 <sup>3</sup>	備考
遠賀川上流	稲築町鴨生浄水場から上流	A	イ	新宮ノ前橋 <sup>1</sup>	平成13年3月30日 (昭和49年7月25日)	福岡県
遠賀川下流	稲築町鴨生浄水場から下流	B	イ	日の出橋、川島		
江川	坂井川合流点から上流	C	イ	江川橋		
西川	全域	B	イ	島津橋		
犬鳴川	全域	B	イ	粥田橋		
八木山川上流	脇野橋から上流(力丸ダム貯水池を除く)	A	イ	脇野橋		
八木山川下流	脇野橋から下流	B	イ	樋口橋		
彦山川上流	今任橋から上流	A	イ	今任橋		
彦山川下流	今任橋から下流	B	イ	耨橋		
中元寺川上流	三ヶ瀬橋から上流	B	イ	三ヶ瀬橋		
中元寺川下流	三ヶ瀬橋から下流	B	ハ	皆添橋		
金辺川	全域	A	ハ	高木橋		
穂波川上流	秋松橋から上流	A	イ	天道橋		
穂波川下流	秋松橋から下流	B	イ	東町橋		
山田川 <sup>2</sup>	全域	B	ハ	大倉橋	平成13年3月30日	

注) イ:直ちに達成

ロ:5年以内で可及的速やかに達成

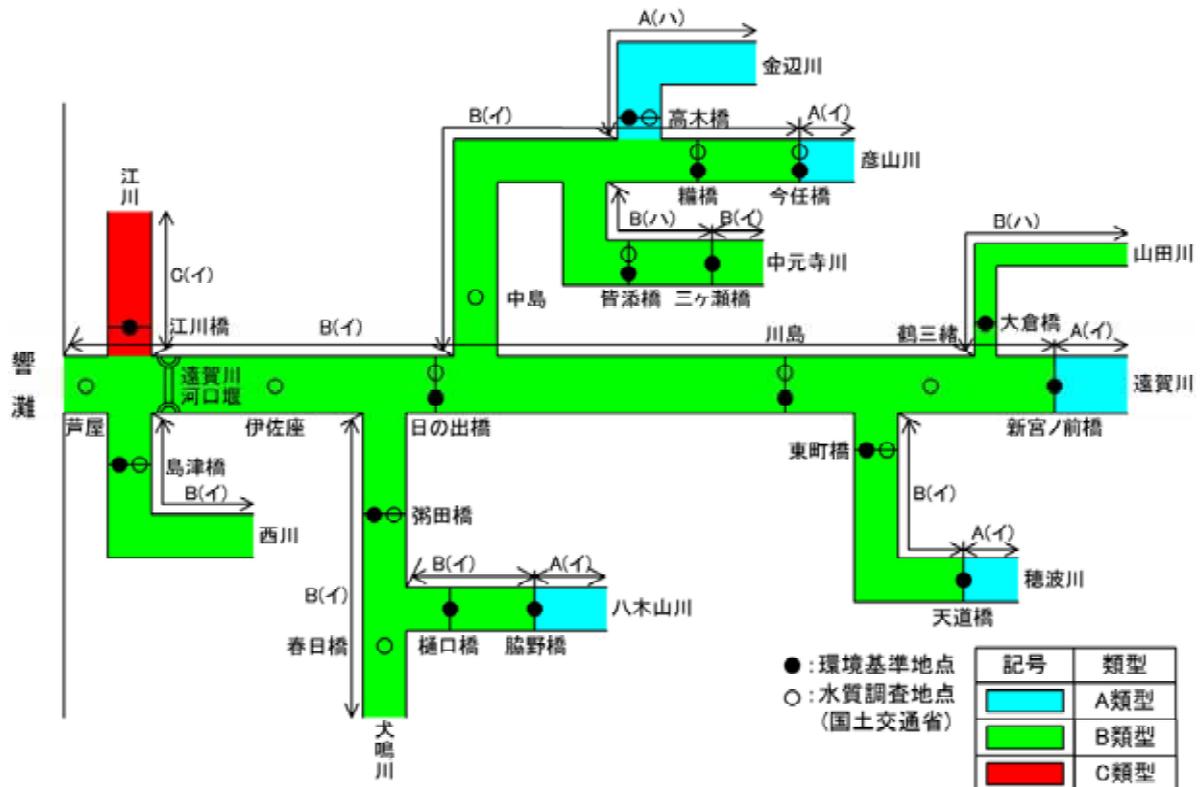
ハ:5年を超える期間で可及的速やかに達成

1 遠賀川上流の環境基準地点については、平成13年度より鴨生浄水場取水口から新宮ノ前橋に名称変更。

2 山田川については、平成13年3月30日に類型指定。

3 指定年月日の( )書は、最初の指定日を示す。

出典:「平成17年版環境白書」(福岡県)



上図は表 2.2.3 に示す環境基準類型指定状況をもとに作成

図2.2.2 遠賀川水質環境基準地点及び類型指定指定状況図

## 2. 遠賀川の現状と課題

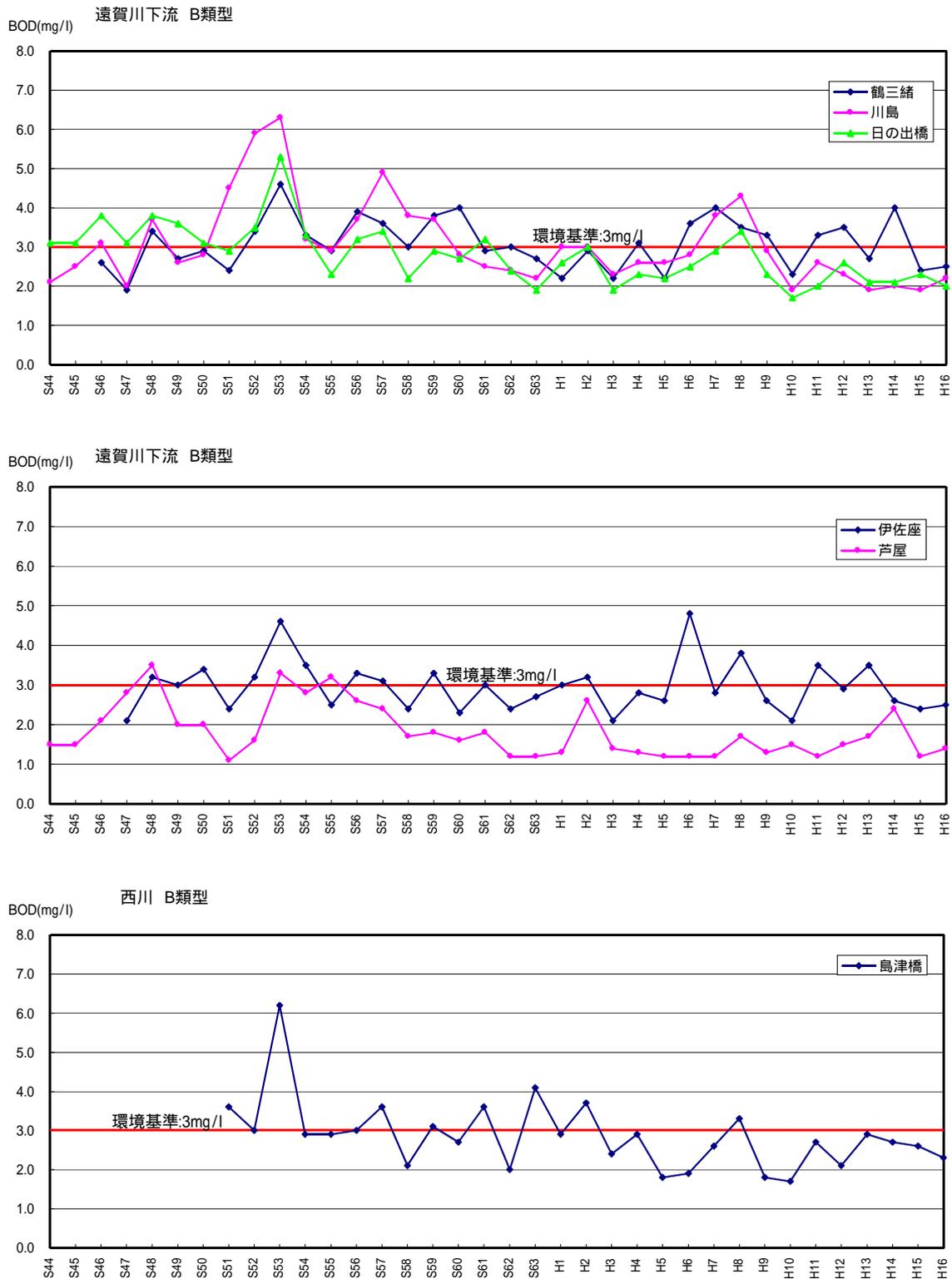


図2.2.3 (1) 遠賀川水系におけるBOD75%値の経年変化図 (1/3)

BOD75%値：水質の良いものから12個並べたとき、水質の良い方から9番目の値(1月～12月)

## 2. 遠賀川の現状と課題

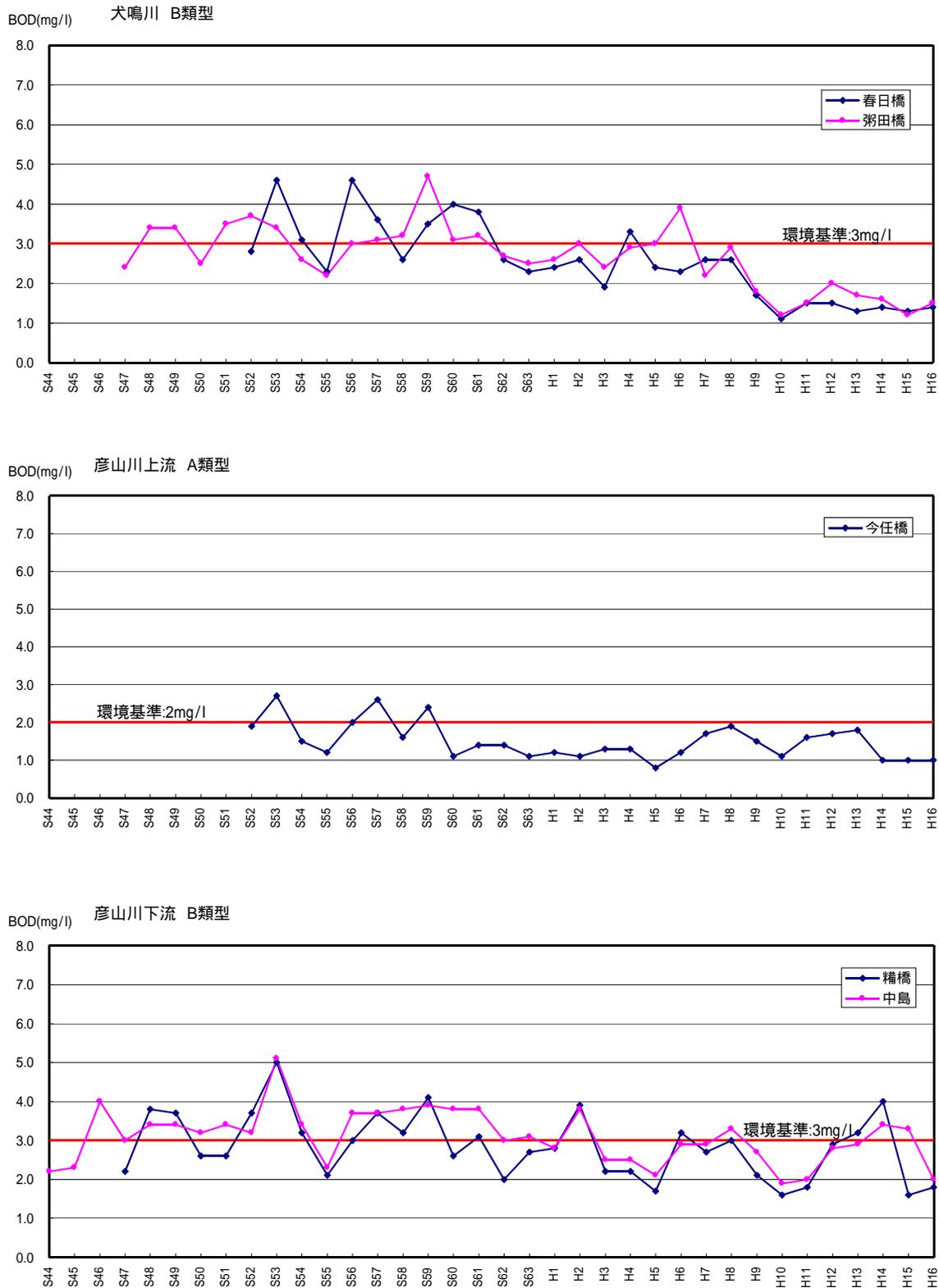
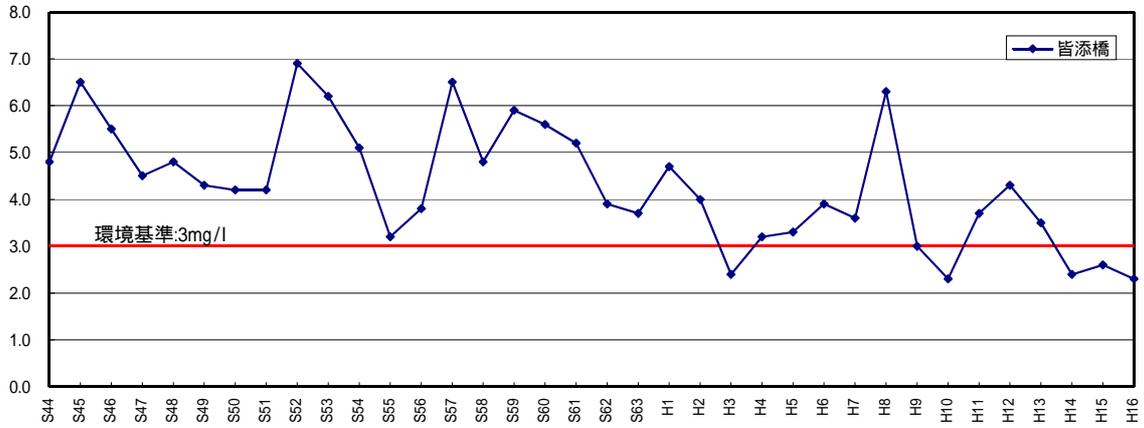


図2.2.3 (2) 遠賀川水系におけるBOD75%値の経年変化図 (2/3)

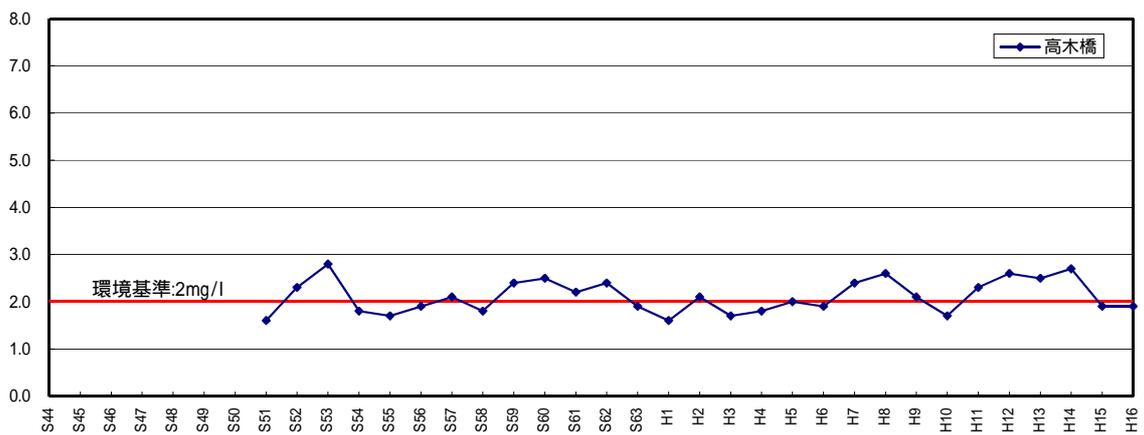
BOD75%値：水質の良いものから12個並べたとき、水質の良い方から9番目の値(1月～12月)

## 2. 遠賀川の現状と課題

BOD(mg/l) 中元寺川下流 B類型



BOD(mg/l) 金辺川 A類型



BOD(mg/l) 穂波川下流 B類型

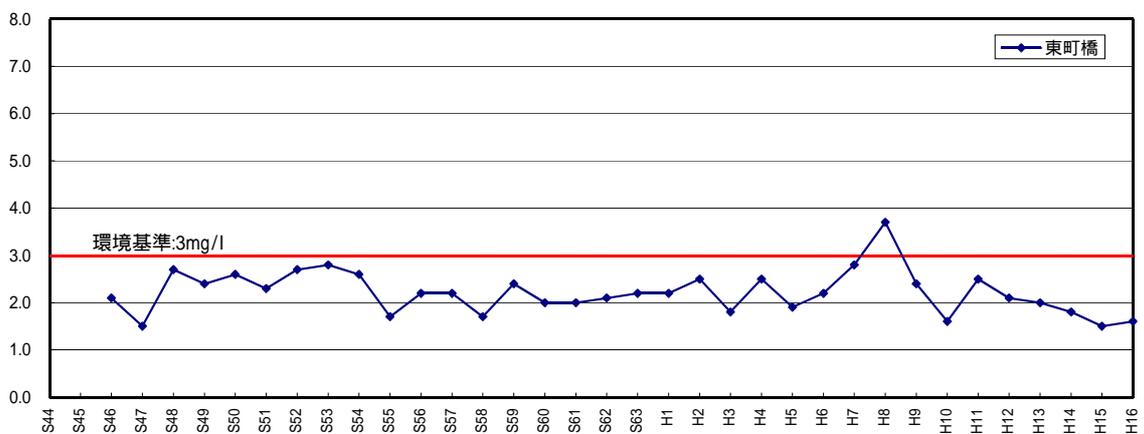


図2.2.3 (3) 遠賀川水系におけるBOD75%値の経年変化図 (3/3)

BOD75%値：水質の良いものから12個並べたとき、水質の良い方から9番目の値(1月～12月)

### 2.2.3 河川空間の利用

#### (1) 河川空間の利用

遠賀川の上流部は、幅が狭いことから高水敷の利用は少なく、主に堰湛水域での釣りやカヌー等の水面利用が行われ、水質が良好な区間では水遊びをする子どもたちの姿も見られます。

遠賀川の上流まで鮭が遡上した経緯があり、嘉麻市大隈にある鮭神社では、神の使いとしての鮭への感謝と豊作を祝う献鮭祭けんげいさいが毎年12月に開催されています。現在は、鮭の稚魚の放流が地域住民により行われています。



写真2.2.19 堰湛水域でのカヌー(嘉麻市)



写真2.2.20 水遊び



写真2.2.21 献鮭祭(嘉麻市大隈)



写真2.2.22 鮭の稚魚の放流(嘉麻市)

## 2. 遠賀川の現状と課題

中流部は、高水敷が広く野球場やサッカー等のグラウンド、河川公園、オートキャンプ場等の多目的広場や採草地として広く利用されています。直方市で開催される「のおがたチューリップフェア」や飯塚市を起点として開催される「遠賀川クリーンキャンペーン川下り大会」は、毎年多くの見物客を集め、地域の一大イベントとなっています。

また、平成16年10月に川を利用した環境学習の拠点等となることを目的とした「遠賀川水辺館」がオープンし、住民団体等の交流や川に関する体験学習、川に関する情報発信の場として多くの人々に利用されています。



写真2.2.23  
遠賀川クリーンキャンペーン川下り大会(飯塚市)



写真2.2.24  
のおがたチューリップフェア(直方市)



写真2.2.25  
遠賀川水辺館(直方市)



写真2.2.26  
遠賀川リバーチャレンジスクール

## 2. 遠賀川の現状と課題

下流部は、遠賀川河口堰が建設され人為性の濃い河川空間となっていますが、広々とした高水敷には多目的広場やグラウンド、サイクリングロード等が整備され、スポーツ、レクリエーションやイベント等に幅広く利用されています。

また、遠賀川河口堰貯水池には、平成2年に開催されたとびうめ国体のレガッタ会場として使用された漕艇場そうていじょうがあり、現在は高校・大学の合宿所も造られ、水上スポーツの場として沿川住民のみならず広く地域の人々の身近な空間として親しまれています。

河口部は、左岸側には芦屋港を挟んで白砂青松が美しい芦屋海岸、右岸側には洞山どうざん、千畳敷せんじょうじき等の奇岩景勝の磯を巡る波懸け遊歩道なみか、遠賀川を一望できる魚見公園うのみや城山公園しろやま等の景勝地が多く、河口から海域にかけて北九州都市圏の海洋レジャースポットとなっています。



写真2.2.27  
河川敷広場(中間市)



写真2.2.28  
サイクリングロードと多目的広場(水巻町)



写真2.2.29  
遠賀川河口堰貯水池での水上スポーツ



写真2.2.30  
波懸け遊歩道(芦屋町)

## 2. 遠賀川の現状と課題

彦山川の上流部は、水質が良好であることから水遊びをする子どもたちの姿が見られるなど、親水利用が比較的多い区間となっています。また、大任町では、しじみを環境保護とまちおこしのシンボルと位置づけ、しじみの放流や各種催しなどを行う「しじみ祭り」が開催されています。

中流部の田川市伊田地区では、福岡県の無形民俗文化財に指定され約 400 年の歴史をもつ「川渡り神幸祭」が行われ、彦山川が祭事の舞台として利用されています。また、福智町の中元寺川合流点一帯では、河川公園や水辺の楽校が整備され、地域住民の憩いの場、子どもたちの環境学習・自然体験の場として利用されています。



写真2.2.31  
河川公園(添田町)



写真2.2.32  
川渡り神幸祭(田川市)



写真2.2.33  
水辺の楽校(福智町)



写真2.2.34  
タガッパ学校

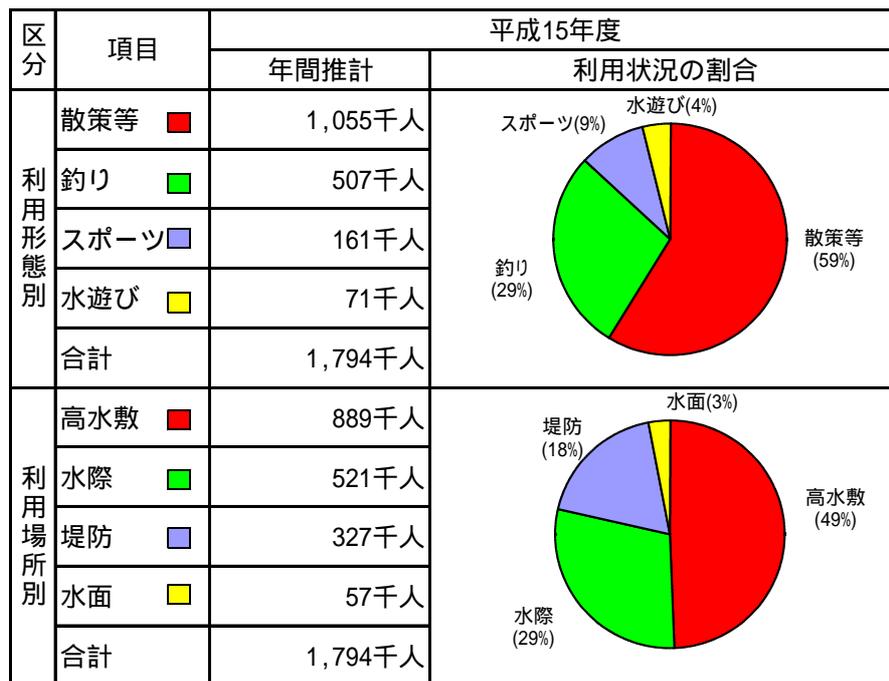
## 2. 遠賀川の現状と課題

遠賀川の高水敷は、採草地や多目的広場等により比較的広い河川空間が確保されています。その空間では、各種イベントや水辺とのふれあいなど地域ごとに特徴的な利用形態があり、地域住民の憩いとふれあいの空間となっています。このような河川空間には、地域を特徴づける景観や歴史を刻んだ風土が残されています。

これら、人と川とのふれあいの場、まちを特徴づける景観や風土等について、その維持・形成を図る必要があります。

平成15年度に遠賀川水系の大臣管理区間で実施した「河川水辺の国勢調査(河川空間用実態調査)」による河川の年間推定利用者数は約180万人です。

このように遠賀川は、散策、釣り、スポーツなど多岐にわたり、多くの人々に利用されていますが、水遊び等の水面利用者はわずかであり、その原因は水辺へのアクセスがしにくいこと、河川の水質が悪いことが考えられます。



出典) 河川水辺の国勢調査

図2.2.4 年間河川空間利用状況

(2) 河川空間の美化・管理

遠賀川では、高水敷や川に捨てられたゴミを度々見かけます。また、近年では家電製品やその他粗大ゴミなどの不法投棄が増加しています。水質の問題とあわせてこのゴミの問題は、遠賀川流域の大きな課題でもあります。これらのゴミは洪水時に草木とともに下流に流れ、最下流の遠賀川河口堰貯水池では、一面がゴミに覆われる状況が度々発生しています。

ゴミの不法投棄は治水上の障害となるだけでなく、著しい河川環境の悪化をもたらしており、これを抑止するための取り組みが必要です。



写真2.2.35 ゴミ投棄状況

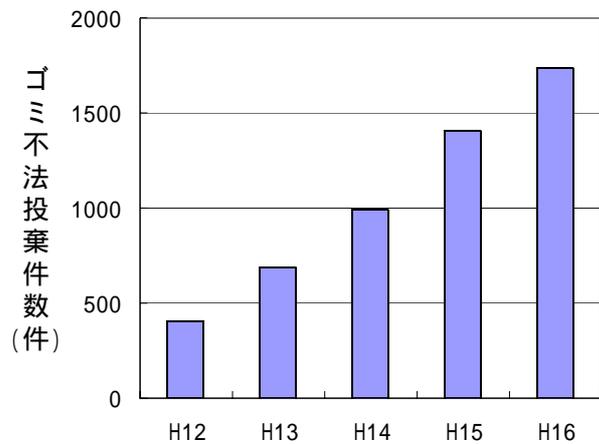
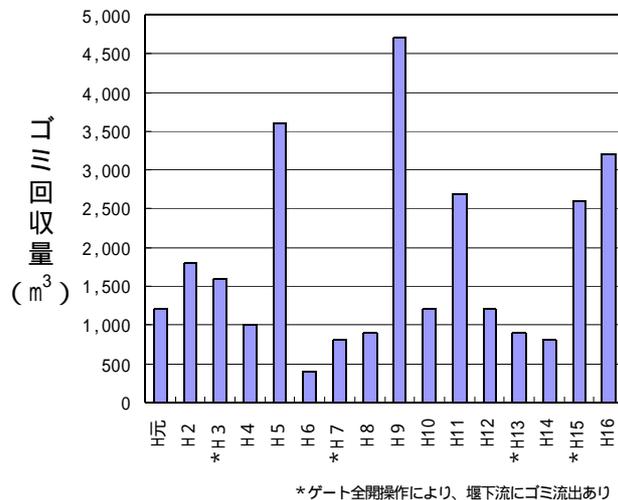


図2.2.5 ゴミ投棄件数



写真2.2.36 出水後の遠賀川河口堰貯水池の状況



\*ゲート全開操作により、堰下流にゴミ流出あり

図2.2.6 遠賀川河口堰におけるゴミ回収量

## 2. 遠賀川の現状と課題

地域住民も河川内でのゴミの多さを認識しており、流域内各地では数多くのボランティア団体による一斉清掃や地域ごとに清掃活動を実施するなど、河川環境の美化に対する意識が高まっています。また、毎年10月は遠賀川美化月間として、河川美化意識の向上に取り組んでいます。



写真2.2.37 地域住民による河川美化活動

また、下流部の支川西川においては、多くの船舶が不法係留されています。船舶の不法係留は、洪水時の流下阻害や船舶からの油流出など河川管理や水質環境上の障害となり、河川空間利用の適正化へ向けた取り組みが必要です。



平成16年12月現在において、約640隻の不法係留船が確認されています。

写真2.2.38 不法係留の状況(西川)